

沖縄に基地は いららない



プラスターを突き上げて抗議する参加者
(おおさか総がかり集会)



座り込みを排除しようとする
機動隊に抗議する人々

オスプレイ配備撤回へ 地域で抗議行動を

昨年12月10日、大阪府民4000人が結集し、「沖縄に基地はいらない! おおさか総がかり集会」が開催され、同仁会・健康友の会もみはらからも54人が参加しました。

参加者からの報告

私も何度か訪ねた沖縄や石垣島、そして25年前に家族で訪れた伊平屋島は、人口が1000人ほどの小さな島、信号機は教育のため1か所のみ。私は世界一美しい島は沖縄だと思っています。

1972年、私が高校3年生の時に返還され、やっと戦後だと聞

きました。しかし、あれからまだまだ本島の沖縄は戻っていない状態が続いています。安保条約によって、どれだけ県民が痛め続けられているのか、民主主義がないがしろにされているのか。いったい選挙とはなんだと思います。

集会に参加し日本中からエールを送りました。デモ行進中、おきなわをかえせ〜おきなわをかえせのメロディーが頭をよぎり、ドキュメント映画の中でも県民が命がけで守っている姿が映し

出されています。自衛隊や大阪府警、立場が変われば何でもできるのか。もちろん戦争は知らないですが、戦前と同じようになっていくのかと危惧しています。

全日本民医連では、昨年12月13日のオスプレイ墜落に対し、各県連・法人で抗議声明を出すとともに、それぞれの地域で抗議行動を行うよう呼びかけ、オスプレイ配備撤回への取り組みを強めます。これ以上、政府の言いなり、アメリカ言いなりの国にしないため、集会・署名の行動をこれからも続けていこうと考えています。共に頑張りましょう。

(組織部 山口佐知子)

やりきれない怒り

沖縄支援行動 東村高江

座り込み 平和学習に参加して

同じ国という、ひとまとまりの場所に住む同士が、一種の言葉の暴力で殴り合わなくてはいけない現状に、沖縄の問題の深刻さを美

感じました。そして何よりも、反対側住人と機動隊員や建設会社職員が言葉の暴力で殴り合い、傷ついたところで、直接的に問題の解決につながることに、どうしようもないやりきれなさを感じました。

今回、この支援に参加し感じたこと、考えたことを何らかの形で自分の外に出していくことで、少しでも改善につながる力になればと思います。

(同仁会本部 田村 萌)

シリーズ 現場からの 視点

その22



訪問し服薬状況を確認する薬剤師

適切な薬物治療が行われるためには、保険薬局でお渡しする薬について、患者さんとのコミュニケーションやお薬手帳での管理はもろろのこと、医療機関や在宅医療・介護に関わるスタッフとの連携と情報交換が欠かせません。

さまざま医療機関や、医師からの多種多様な処方箋を扱えることも、保険薬局の薬剤師の特徴です。最近では、かかりつけ薬剤師、地域包括ケアを具体化する地域連携にも挑戦しています。また薬剤師が在宅訪問することで、どのような生活の場で服薬されているのかを、把握することも求められてきています。

残薬を一包化で改善

(照れ屋なAさん)
初回訪問した時は血圧が200前後、血糖値も260以上、処方された薬剤を指示に従って服用することも難しく、残薬が多かったのですが、一包化になり、改善しています。それでも飲み忘れがあるので、日付を入れてお薬カレンダーにセット。カレンダーになってからは飲み

キーワードは「モノからヒト」

薬の専門家、そして地域医療の担い手として在宅へ

残しもほぼなくなりました。
訪問時の血圧測定で140くらいまで下がっているのを見て、「すごい下がったなあ」とうれしそう。「菓子パンばかり食べたらかんよ」というと「分かった食べへん」と素直に聞いてくれ血糖値も下がり薬も減らすことができました。ケアマネージャーとの会議で褒められると手を頭にして照れくさそうに……。今後薬はきっちり服用し食事にも気をつけてくださいなね。

お薬カレンダー

独居で緑内障の進行により服薬が上手くできず、薬剤師訪問依頼となった方。初めて訪問した時に、娘さんが購入されたというお薬カレンダーがあり、セットして服薬管理を開始。でも目が見えにくいためカレンダーから薬を落としてしまい、探せずに飲めないことがありました。

以前は、薬袋から自分で取って飲んでいたので、従来の方法に近づけようと、朝夕で缶を分け、大きく「あき」「ゆつ」と書いて必要分をセットすると、きちんと服用できるようになりました。きちんと飲むにはお薬カレンダー、という思い込みを反省させられた出来事でした。

病気があっても、住み慣れた所で患者さんが療養していくために、薬の専門家として関わっていくこと、キーワードはモノからヒト。薬局内外で、より患者さん側での仕事に取り組む。これまで以上に在宅にも出ていきたいと思っています。

(泉州保健医薬研究所 代表取締役 森本泰行)